



Quiet revolution

「静かなる革新…何のこと?」と思われたかもしれません。これは、オカムラの提案する新しいオフィス環境づくりのキーワード。オフィスで働く多様な人たちに適した新しい環境のあり方を提案していきます。さて、ここで焦点をあてるのは、ひとりでじっくり考えて成果を出すタイプの人たち。彼らが力を発揮するのにふさわしい環境とは?

オフィスで働く人の63%は、 自分のことを 内向的な人間だと思っています。

「集団にうまく調和したいと願う人間と、ひとりでいたいと願う人間がいるのだ。ずば抜けて創造的な人間は、後者に含まれていることがよくある*」内向的な人がもつ力について作家スーザン・ケインさんはこう述べています。オカムラの調査によると、日本のオフィスで働く人の63%が、自分を「内向的」「やや内向的」と認識しています。この過半数を占める内向型の人たちに創造力を思う存分発揮してもらうことは、これからの大きな経営課題といえるでしょう。では、そうした力を引き出す環境はどのようにしてつくることができるのでしょうか？ そのための注意すべきポイントは？ 少し考えてみましょう。

* スーザン・ケイン著・古草秀子訳『内向型人間の時代 社会を変える静かな人の力』（講談社）98ページから引用



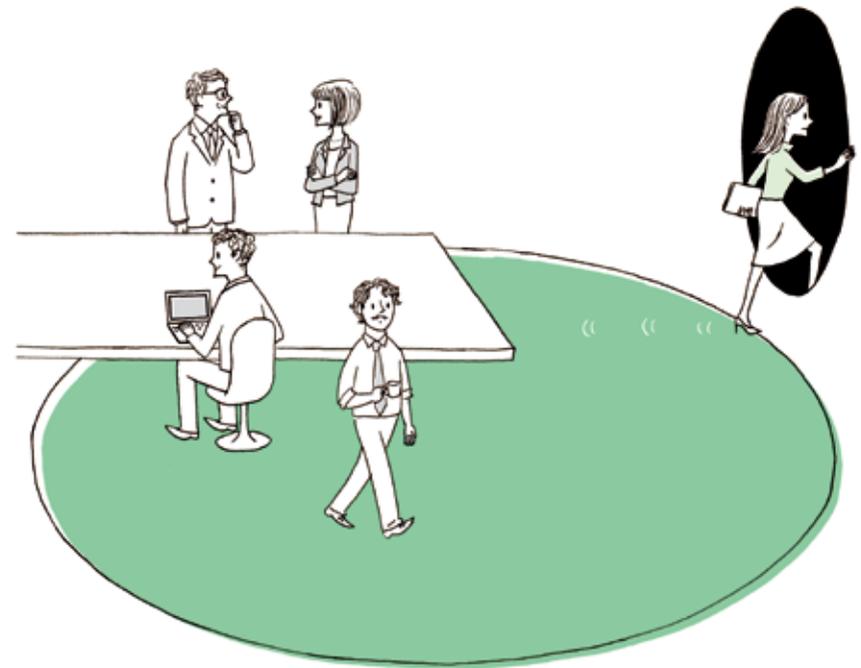
なのに、日本のオフィスは けっこう外向的にできている…。

「内向的な人がもつ力」をいかに引き出すか。このことを考えるうえで、気になるのは今のオフィスの環境です。オカムラの調査によると、オフィスワーカーの77%はまわりの人との間に仕切りのない「島型対向式」の執務環境で働いていることがわかりました。このデスクレイアウトは仲間とコミュニケーションをとりながら仕事を進めるためにはたいへん適していますが、ひとりでじっくりと考え、発想し、企画を練るような仕事には不向きです。また、スーザン・ケインさんによれば、内向的な人は外向的な人よりも外部からのさまざまな刺激に敏感に反応するため、開放的すぎるオフィス環境ではその力を十分に発揮することができないといいます。内向的な人たちは、この「外向的すぎる」今のオフィス環境のなかで余計にその神経をすり減らしているのかもしれない。



思えば、日本のオフィスには、 ひとりになってじっくり考えられる 環境が足りない。

きっと内向的な人たちは、こんなことを考えているはず。「集中してじっくりひとりで考えられる場所があれば、もっと効率よく企画が出せるのに」「まわりの視線や音を気にせず徹底的にひとつの作業を完遂したいのに、自分のデスクでは気が散って…」「リラックスした雰囲気のなかで、小人数でじっくりと一つのテーマについて意見を交わせる空間があればいいのに」こうした声なき声に、オフィスはどう応えていけばよいでしょう？ たしかに、作業や思索に集中したいときには開放的すぎる環境は不向きです。事実、93%の人が、そうした場合には自席を離れて、集中作業に相応しい環境に移りたいと考えています（オカムラ調べ）。今の日本のオフィスには残念ながら「じっくり考えられる環境」が不足しているようですね。



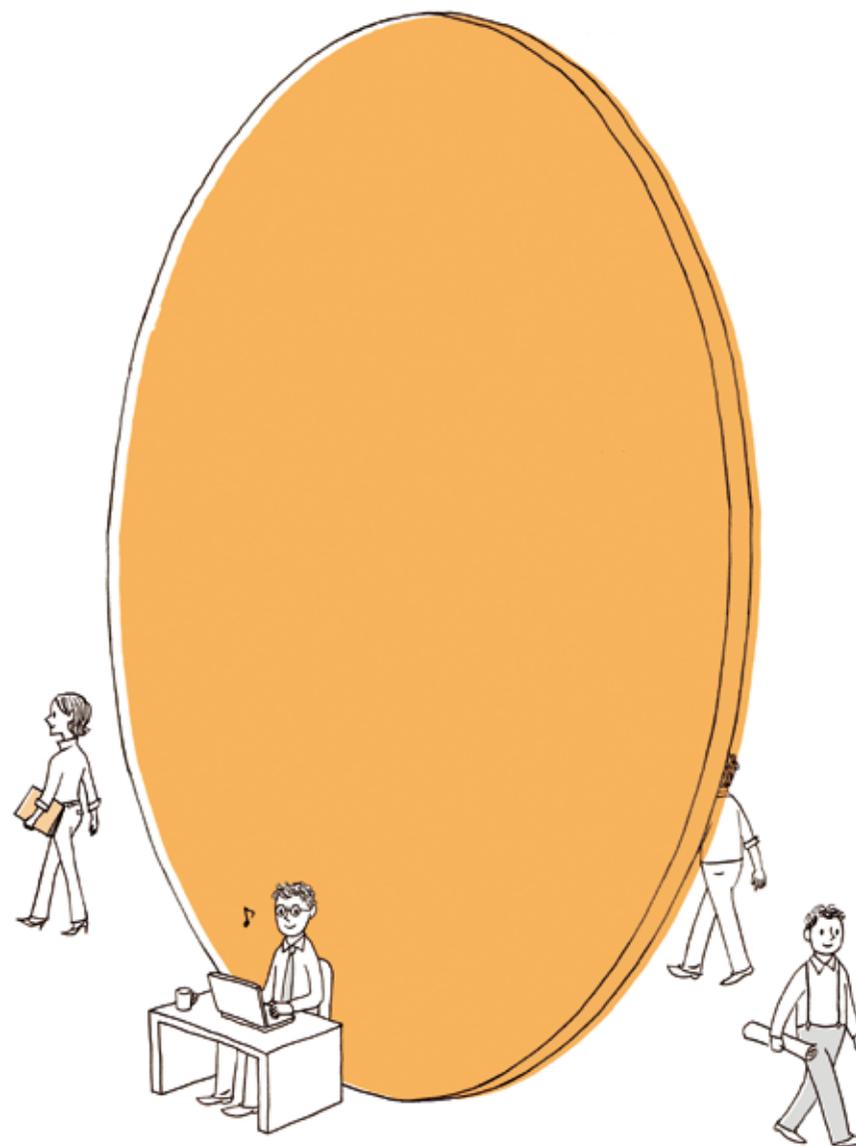
ふと考える。こんな環境があれば もっと集中できるのに…。

ひとりでじっくりと考える作業には、集中しやすく、その状態を長く続けられる環境が必要です。集中を妨げる要素は主に二つ。自分のまわりの「騒音」と、作業の内容を後ろから覗かれる「他者の視線」です。開放的すぎる執務環境が集中しにくい理由も、これらの刺激があるせいです。

Q: あなたにとって、もっとも集中しにくい条件は(オカムラ調べ)



騒々しさが少なく、人の視線を気にしなくてもいい環境とは？ それは集中したいとき、どこに行きたいか想像するとわかりやすいかもしれません。静かさを求めるのなら図書館の閲覧コーナーも一つでしょう。また、覗かれる心配のない場所といえば、ファミリーレストランの背の高い席なども有力候補。静かで覗かれない究極の場所としては個室や役員室が思い浮かびます(でも個人の都合で自由には使えませんね)。では、こうした集中しやすい環境が自席の身近にあったらどうでしょうか？ 即集中できる環境がすぐそばにあれば便利ですね！



自席のそばに、集中しやすい環境を。 その人に合った環境づくりが大切です。

ひとくちで「集中しやすい環境」といっても、人によっては「まわりが多少ざわついている方がむしろ集中できる」場合もあるでしょう。このように、じっくりと考えるための環境も、人や作業の目的によってさまざまです。ここでは、四つに分類し、集中しやすい環境づくりの例を紹介しましょう。



A 音も視線も遮断して
仕事したい人

個室とまではいかないものの、作業スペース全体がぐるりと仕切られ、騒音と視線の刺激がおさえられた環境



B 音は気にならないが、
覗かれるのはイヤな人

まわりのざわめきはあるものの、ファミレスの席のように背後が囲われ、後ろから人に覗かれる心配のない環境



C 視線は平気だが、
音は気になる人

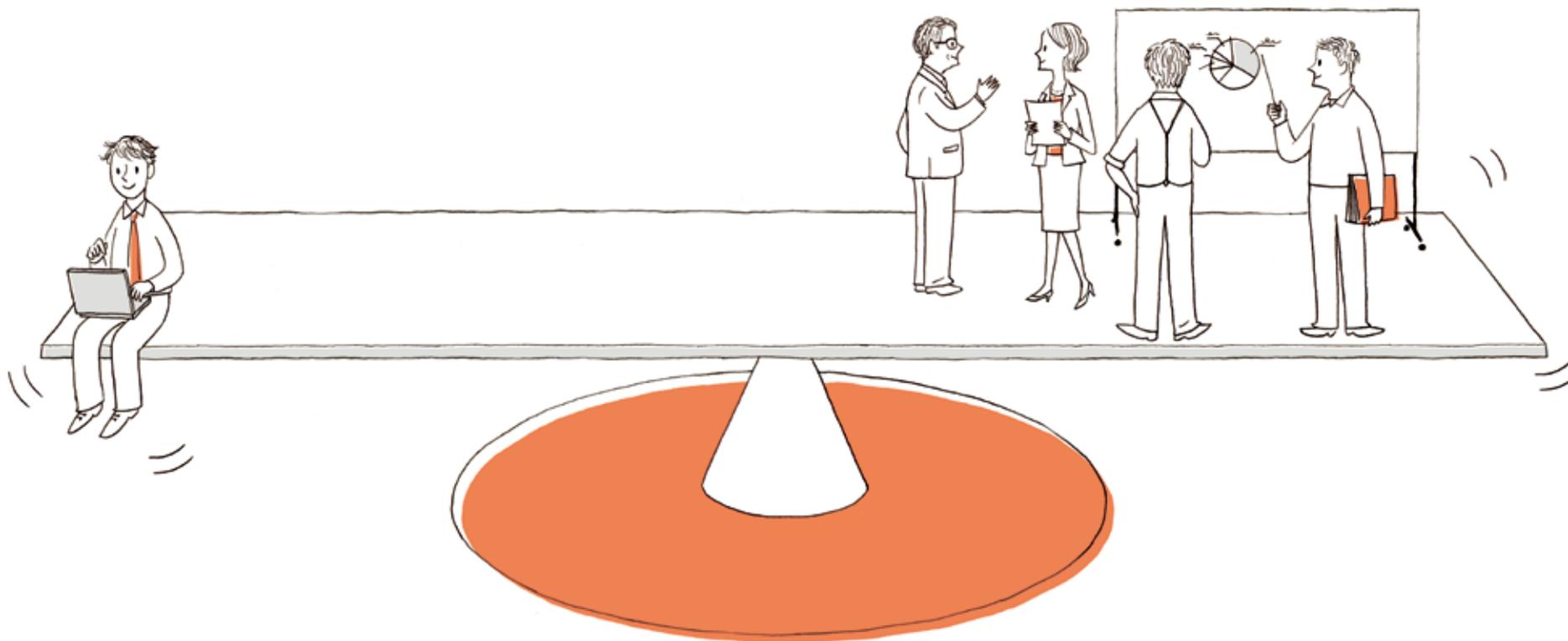
他の人の視線は感じるものの、まわりの騒がしさは軽減。話し声や機械音などノイズが気になる人に適した環境



D ほどほどに仕切られて
いけば大丈夫な人

島型対向式の環境よりも多少は騒音と視線の刺激がおさえられ、周囲の人たちと会話を交わすことができる環境

多様な人たち × 多様な作業 = オフィスには多様な環境が必要です。



本冊子では、「ひとりでじっくりと考えられる集中しやすい環境」についてご紹介してきました。しかし、これはあくまでもアイデアの一例です。オフィスでは、3~4人が集まり、いっしょに考え、議論して進める仕事も多く、そうした活動のしやすい環境づくりがなされていることも良いオフィスの条件になってくるでしょう。ひとりが集中できる環境とともに、小人数チームのための環境もバランスよく整備して

いくことが大切になります。オフィスにはさまざまな個性をもった人が集まり、それぞれがいろいろな作業に携わっています。そうしたワーカー個々の特性に応じた働きやすさを見つめ、その能力を最大限に発揮できる環境づくりを行うことは、多様性の時代における大きなテーマといえます。オカムラは、ワーカーや組織それぞれの状況に最も適した環境のあり方を、これからも発信してまいります。

Quiet revolution

企 画：株式会社 岡村製作所
Quiet revolutionプロジェクトチーム

発行日：2013年9月

発 行：株式会社 岡村製作所 オフィス研究所

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町4-1 ニューオータニ ガーデンコート10階

お客様サービスセンター ☎0120-81-9060

受付時間 / 9:00～17:20(土・日・祝日、年末年始を除く)

© **okamura**